

ANAグループ整備部門

子供の頃は空を眺めているのが好きで、いつも上ばかり見ていた。実家が空港に近いこともあり、日頃から何となく飛行機が目に入っていた。ふと、あの金属の塊は何で自由に空を飛んでいるのだろうと疑問に感じたのが整備士を目指したきっかけだ。

入社以来ずっと羽田空港にある整備格納庫（以下ドック）で主に重整備を担当している。機体がドックインしてくると、車で言うところの車検のようにさまざまな箇所を点検し、パーツの交換作業

凛としていきる

理系女性の挑戦

女性の視点で後輩の道標に

を行う。想像していた以上に体力を使う作業ばかりで、当初はこんな不安を感じたことを覚えて

いた。しかし、力では男性にかなわない。でも「これだから女性

は」と言われるのだけは嫌だったので、女性だからできること

初めは男性と同じように作業をこなせる整備士にならなければいけないと必死にやっ

てきた。しかし、力では男性にかなわない。でも「これだから女性

は」と言われるのだけは嫌だったので、女性だからできること



ボーイング777型エンジンと

進むにつれて現場が乱雑になってくる。そこで、作業で使用する順番や使い易さを考えながら現場の整理をする

う、確認主任者として業務にあたっている。点検でドックに入っていた機体を自分の目で確認し、完全な状態でドックから送り出すというこの仕事に、誇りを持って取り組んでいる。お客様が安全に快適に移動できるためのサービスだからこそ女性にしかできない、女性だからできる事を常に意識し整備をする

入社当時に比べたら女性整備士も増えては来ているものの、男性と比べたらまだまだ圧倒的に少ない。後輩の女性整備士に恥じないように、彼女たちが歩む道標になれるように



ANAベースメン テナンステクニク スドック整備部門 生森 智子

これからも努力を続けていきたい。 企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF) (火曜日に掲載)

〈プロフィール〉03年千葉職業能力開発短期大学校航空機整備課卒、同年ANAエアクラフトテクニクス(現ANAベースメンテナンステクニクス)入社。12年全日本空輸出向を経て、15年現職に復帰。